

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「一人一人が大切にされる学校づくりをめざす」という学校教育目標をかかげ、「個別最適化」をめざす取組をすすめている。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

「一人一人が大切にされる学校」を実現するために、一人一人の子どもの自己有用感の向上に向け、様々な教育活動に取り組んでいる。

昨年度の大阪市学力経年調査の質問紙調査「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目では、肯定的な回答をする児童の割合が 93.2%と多くの児童の規範意識の向上がみられた。学校生活における様々な「きまり・規則」を守ることが当たり前になるように、また、児童が自主的に実践できるように指導方法や環境整備をさらに工夫し、今年度も継続して取り組みを進めていく。

昨年度、道徳科の研究に取り組み、「道徳科の学習で自分の考えを伝えることができますか。」に肯定的な回答をした児童が 85%(4月比 11%増)、「道徳科の学習で考えを友だちと伝えあっていますか。」に肯定的な回答をした児童が 90%(4月比 31%増)と「考え、議論する道徳」の点から大きな成果を上げることができた。同様に、情報モラル教育についても研究を深め、発達段階に応じた年間指導計画を作成し、実施することができた。引き続き、指導法の研究に努め、「考え、議論する」ことを通して自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てていきたい。

特別支援については、特別支援を要する児童一人ひとりのニーズに応じた支援について全教職員が共通理解を図ることができる機会が増えてきている。特別支援学級での異学年交流などの機会も増え、特に校務支援システムの「いいところみつけ」を活用し、特別支援担当教員、学級担任、関係職員、保護者等が密に連携し、一人ひとりのニーズに応じた細やかな支援を行うことができた。今年度も取り組みを継続して進める。

幼小交流では、年間計画にそって各学年交流を実施することができた。また、休み時間に児童が自主的に交流する「スマイルタイム」も継続して実施することで、思いやりの態度や自尊感情を高めることにつながった。今後も、計画的に取り組むを進めていく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

「一人一人が大切にされる学校」を実現するために、一人一人の子どもに個別最適化された学びを実現していくために、様々な教育活動に取り組んでいる。

現状では、学力・体力運動能力ともに、全国平均を上回っていることが確認できている。今後は、より「個別最適化された学び」を実現していくために、ICTを積極的に活用し、スタディ・ログを蓄積したり、指導と評価の一体化を推進したりしていきたい。

昨年度、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をした児童が 88.1%であった。今年度は、より主体的・対話的に学ぶ児童を育てていきたい。

ICTを活用した学びの教育実践については、ねらいに合わせて多様な「ICTを活用した学び」を実践し、効果的な場面での積極的なICT活用を図ってきた。

その結果、「ICT を使うことで勉強の内容が分かるようになった」に肯定的な回答をした児童が 85%と大きな成果が見られている。今後は更に ICT を文房具のように当たり前に活用している授業づくりをめざして、研究を進めていきたい。

体力向上への取組では、昨年度校舎増改築工事の影響で、運動に取り組む環境に大きな影響が出た。今年度も引き続き工事が行われるため、運動の内容、質など工夫して、少しでも多くの運動経験ができるようにしていきたい。特に、教科体育では「体づくり」運動に着目して継続的な取組をしていきたい。

食育の推進については、栄養教諭による栄養指導や一口メモの活用や給食委員会の発表、給食週間での呼びかけにより児童の食に対する意識に高まりがみられている。今後も継続して指導を進めるとともに日常の生活でも実践できるようにしていきたい。

健康生活については、「早寝・早起き・朝ごはんを心がけている」に肯定的な回答をした児童が 87%(10 月比 11%増)と児童の意識の中に定着し、大きな成果を上げることができている。今年度も引き続いて、健康診断の結果や自分の健康状態に関心をもち、ガッツ週間などの機会を通して、自分のできる行動をしようとする子どもを育てていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和 2 年度末の校内調査「いじめについてのアンケート」において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 97%以上にする。
- 令和 2 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 97%以上にする。
- 令和 2 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を 0 件にする。
- 令和 2 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を 0 件にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 2 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を 5 %以下にする。
- 令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を 40%以上にする。
- 令和 2 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 令和 2 年度末の体力テストの反復横跳びで、平均の記録を男女共に年度当初より向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標(小・中学校)

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 97% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 97%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を 0 件にする。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を 0 にする。

学校園の年度目標

- 学校生活アンケート「正しい言葉づかいをするようにしている」に対して肯定的回答する割合を児童 90%、保護者 85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 年度末の体力テストの反復横跳びで、平均の記録を男女共に年度当初より向上させる。

学校園の年度目標

- 学校診断アンケート「I C Tを使うことで勉強の内容が分かるようになった」に対して、肯定的回答する割合を児童・保護者ともに前年度より向上させ 75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式例 2)

大阪市立滝川小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 97%以上にする。</p> <p>令和元年度 100%→</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 97%以上にする。</p> <p>令和元年度 93.2%→</p> <p>○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を 0 件にする。</p> <p>令和元年度 0 件→</p> <p>○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を 0 にする。</p> <p>令和元年度 0%→</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 学校生活アンケート「正しい言葉づかいをするようにしている」に対して肯定的回答する割合を児童 90%、保護者 85%以上にする。</p> <p>令和元年度 児童 89% 保護者 93%→</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実】</p> <p>ろうか階段の正しい歩行の仕方について教職員全体で組織的に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎建設に伴う施設・設備の中で、けがの未然防止のため廊下・階段の正しい歩行「右側・静かに」について、全教職員で共通理解し指導する。 学期に 1 回強調週間を設け、廊下・階段の正しい歩行の仕方についての意識化を図る。 	
<p>取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>本年度も研究教科を「特別の教科 道徳」とし、全学年で授業研究に取り組む。情報モラル教育にも全学年で取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年 1 回、計 6 回の全体授業研究に取り組む。 「考え、議論する」ことを通して、児童が自分の思いや考えを豊かに表現できるように指導法を工夫する。 道徳学習に関するアンケート「自分の考えを伝えることができましたか。」「考えを友だちと伝え合っていますか。」において、肯定的に回答する児童の割合を 80% 	

以上にする。	
・発達段階や児童の実態に応じた情報モラル教育年間計画を作成し、実施する。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】	
特別支援を要する児童一人一人のニーズに応じた支援を関係教職員・保護者と連携して実施する。	
指標	
・特別支援教育校内委員会を設置し、特別支援を要する児童一人ひとりのニーズや、「ユニバーサルデザイン」を意識した学習・生活指導の工夫について、教職員が共通理解を図り研修を行う。	
・S K I Pを活用して個別支援計画を作成し、児童理解や支援について、教職員の共通理解を図る。	
・特別支援を要する児童がともに活動し、学び合う場を設ける。	
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】	
幼児・児童の発達や学びの連続性をふまえ、併設幼稚園の利点を生かし、交流を推進する。	
指標	
・発達や学びの連続性を見通した学習計画を構築し、学年ごとに、以下の取り組みを行う。	
1年	スマイルタイム・2月 体験学習（幼保交流）
2年	スマイルタイム・2月 滝川っ子まつり（さくら組との交流）
3年	スマイルタイム・12月 うたう会
4年	スマイルタイム・12月 うたう会
5年	スマイルタイム・7月 ふれあいプール・2月 ガッツ交流
6年	スマイルタイム・6月 ガッツ交流
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】	
自然の中で活動する校外活動を充実させる。	
指標	
・修学旅行、林間学習を実施するとともに、遠足等において自然とふれあう活動を取り入れる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	

大阪市立滝川小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○ 年度末の体力テストの反復横跳びで、平均の記録を男女共に年度当初より向上させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 学校診断アンケート「ICTを使うことで勉強の内容が分かるようになった」に対して、肯定的回答する割合を児童・保護者ともに前年度より向上させ75%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>互いの考えや思いを伝え合い、自分の考えを深めることができる学習（協働学習など）を積極的に取り入れ、主体的・対話的に学ぶ児童の育成に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 ・学校生活アンケート「感じたことや考えたことをまとめたり発表したりしあう場面がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。（令和元年度 86%）</p> <p>・質問紙調査「㊸学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。（令和元年度 88%）</p>	
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>観点別単元評価を充実することで、指導と評価の一体化を推進し、児童の学習改善、教員の授業改善につなげていく。</p> <hr/> <p>指標 ・授業や単元全体における児童の記述や発話、実演等から、目的や課題に応じて様々な資質・能力を発揮し、課題解決する姿を見取り、毎日「いいとこみつけ」に入力する。</p> <p>・ICTを活用し、観点別単元評価表をもとにデータ分析することにより、児童の学習の状況を把握し、児童の学習改善、教員の授業改善に生かす。</p>	

<p>取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C Tを効果的に活用した学びの教育実践に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 ・学校生活アンケート「I C Tを使うことで勉強の内容が分かるようになった」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・I C T活用年間指導計画に沿って、日々の授業において積極的にI C Tを活用し、実践した内容について全体で共有する。 (公開授業、プログラミング実践交流会、情報モラル教育実践交流会)</p>	
<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の授業やガッツ週間において、全学年で体づくり運動を年間計画に組み入れ実施する。</p> <hr/> <p>指標 ・体育科の授業において、体づくり運動（体づくりの運動遊び）を毎時間の導入で5分間程度実施する。 ・ガッツ週間において、体育用具を使ったサーキットトレーニングを実施する。 ・年度末の体力テストの反復横跳びで、平均の記録を男女共に年度当初より向上させる。</p>	
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 「早寝早起き朝ごはん」が健康の保持増進につながることをわかるようにする。</p> <hr/> <p>指標 ・学校生活アンケート「早寝早起き朝ごはんを心がけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	